

1年生 講義一覧

仏典概説Ⅰ（月曜日 1講時）

梶原隆浄

授業のテーマ

主要経典の概説

授業の概要

大乘経典の成立と展開。

授業の目的・ねらい

僧侶として学んでおきたい主要な経典を取り上げ、その内容を概説し、また、経典の伝播を通じて、インド・中国・日本へと仏教思想が変遷していく様子を理解したい。

毎回の授業テーマ・内容

1. 仏典とは
2. 三蔵の成立
3. 大乘仏教
4. 経典の翻訳
5. 般若経
6. 華嚴経
7. 維摩経
8. 法華経
9. 密教経典
10. 浄土経典
11. 日本仏教

到達目標

主要経典を概観することを通じて、仏教に対する理解を深めていただきたい。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

わからない事は、遠慮なく質問し、意欲的にとりくむこと。

成績評価の基準

定期試験（教室） 70%
授業内発表 10%
その他 20%（授業出席 10% 受講態度 10%）

テキストについて

『お経の話』 渡辺照宏著（岩波新書） 880円

参考文献について

『大乘経典解説事典』 勝崎裕彦・小峰弥彦・下田正弘・渡辺章悟 編著（北辰堂） 8,800円

宗祖伝（月曜日 2講時）

南 宏 信

授業のテーマ

法然上人の生涯と思想を学ぶ

授業の概要

釈尊の教えをふまえ、大乘仏教、浄土教思想、日本仏教などを概説した上で、法然上人の思想を、その生涯とともに学んでいく。

授業の目的・ねらい

本学は法然上人の開いた浄土宗を設立母体とする大学である。法然上人の基本的な思想を、その生涯を追いながら学ぶことは、浄土宗僧侶の資格を取得することを目指す者にとっては必須の科目である。仏教思想や法然上人の思想を通して、浄土教思想の現代的意義を問うていく。

毎回の授業テーマ・内容

- ・法然仏教を学ぶ目的と意義
- ・釈尊の生涯と思想
- ・大乘仏教と浄土教思想の展開
- ・中国仏教と日本仏教の展開
- ・法然出現の背景
- ・法然の生涯Ⅰ（幼少）

- ・法然の生涯 2（開宗）
- ・法然の生涯 3（晩年）
- ・法然の思想 1（著作）
- ・法然の思想 2（選択思想）
- ・法然の思想 3（専修念仏）
- ・法然の思想 4（凡入報土）
- ・一枚起請文と弟子たち
- ・法然と現代社会

到達目標

法然の生涯と思想を学ぶことにより、建学の精神を理解し、また浄土宗僧侶を目指す者としての自覚を育み、法然の生涯と思想を教化・説明できるようになることを到達目標とする。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

各時間に講義するテキストの該当箇所を読んでから、受講すること。

受講に当たっての留意事項

毎回予習・復習をすること。

成績評価の基準

定期試験（課題） 70% 到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。
授業内課題 30% 講義中にレポートを課す。

テキストについて

『ブツダと法然』 佛教大学仏教学部（学術図書出版） 1,650円

『ビジュアル 法然上人』 仏教読本編纂委員会（浄土宗） 880円

参考文献について

『仏教入門一釈尊と法然上人の教え一』 佛教大学仏教学科（学術図書出版） 1,870円

伝道学 I（月曜日 3講時）

日下部 謙 旨

授業の概要

伝道の基本。

授業の目的・ねらい

浄土宗教師（伝道者）を目指す者として、自信教人信の自信に重きを置き、伝道の基本を身につける。

毎回の授業テーマ・内容

- ・伝道とは
- ・法然上人を知る
- ・法然上人御忌
- ・発表（子どもの質問に答える）
- ・掲示伝道
- ・視聴覚伝道
- ・テスト
- ・彼岸とは
- ・発表（感動を伝える）
- ・十夜とは
- ・日常勤行について
- ・伝道作法
- ・質疑応答

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

10分間程の発表。

成績評価の基準

定期試験（教室） 60%
授業内発表 10%
その他 30%（授業出席10% 受講態度20%）

テキストについて

『伝道』 恵谷隆戒（浄土宗） 275円

参考文献について

『浄土宗日常勤行の話』 香月乗光（浄土宗） 990円

授業のテーマ

仏教福祉概論

授業の概要

日本における仏教福祉思想とその展開を学ぶ。

授業の目的・ねらい

先人による仏教福祉思想のあゆみを理解し、現代社会において「生老病死」と向き合うことのできる僧侶としての姿勢を身につける。

毎回の授業テーマ・内容

一学期

- ・ 仏教福祉を学ぶ意義
- ・ 仏教福祉に関連する用語の整理
- ・ 日本古代における福祉思想
- ・ 日本中世における福祉思想1（鎌倉新仏教）
- ・ 日本中世における福祉思想2（伝統仏教）

二学期

- ・ 浄土宗祖師の教説と福祉思想
- ・ 日本近世における福祉思想
- ・ 日本近代における福祉思想

三学期

- ・ 仏教におけるターミナルケア
- ・ 現代における仏教福祉
- ・ これからの仏教福祉

到達目標

- ①先人による仏教福祉思想のあゆみを説明できる。
- ②現代社会の「生老病死」の諸問題に対して議論できる力をつける。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義中に紹介する参考文献等を参照しながら不明箇所のないようにつとめる。

成績評価の基準

定期試験（教室） 70% 授業内容に沿った筆記試験を行い、到達度を評価する。
授業内発表 30% 授業を十分理解できているか、授業内の発表により評価する。

テキストについて

適宜プリントを配布する。

参考文献について

- 『仏教社会福祉入門』 日本仏教社会福祉学会（法蔵館） 1,980円
『日本仏教福祉思想史』 吉田久一 長谷川匡俊（法蔵館） 3,190円
『浄土宗の教えと福祉実践』 浄土宗総合研究所仏教福祉研究会（ノンブル社） 2,750円
『日本仏教福祉概論—近代仏教を中心に—』 池田英俊 芹川博通 長谷川匡俊（雄山閣出版） 3,300円
『ともに生きる仏教—お寺の社会活動最前線—』 大谷栄一（ちくま新書） 902円

授業のテーマ

「パソコンの操作活用」と「自行化他の実践手段」を学習する

授業の概要

パソコン（Windows環境）の操作・活用方法を習得しながら、寺務と教化活動、情報の収集と発信について学習する。前提として、制作実習の材料となる仏事・法要の実施意義や目的への正確な認識は不可欠なため、第一義とする自行・日常勤行と併せてそれらの実践精神・意義・目的・展望を理解する。また、情報を扱う際の留意事項、個人情報・人格権（肖像権）・著作権などにも触れる。

授業の目的・ねらい

浄土宗教師としての活動志向を得るために、制作実習を通して自己のあり方を探る。寺務・教化活動のために、パソコンの基本操作を身に付ける。寺院行事の紹介や案内、その実践精神に基づく伝道や教

化活動のために、柔軟なイメージを描いて様々な形にする手法を身に付ける。

毎回の授業テーマ・内容

1 学期

- ・ハードウェアとソフトウェア、アプリケーションソフトウェア
- ・パソコンとスマホ、パソコンの仕組みと基本操作【ワード】
- ・寺報の制作【パブリッシャー】

2 学期

- ・僧侶における勤行・儀式・仏事・寺院行事の実践精神と意義・目的
- ・ホームページの制作【テキスト、ブラウザ】

3 学期

- ・浄土宗寺院の年間行事・定例法要・寺務
- ・ポスターの制作【ワード】

通年（断続的）

- ・情報の収集と発信、情報の取り扱い（著作権・肖像権・個人情報・承諾書ほか）
- ・表現方法・体裁・デザイン、ワードの活用（履歴書・次第）、ウェブメールの活用
- ・エクセルの活用（表計算・行事予定表・間取り図）

到達目標

- ①勤行・儀式・行事の実践精神を自分の言葉で適切に表現できる。
- ②情報収集と教化活動の道具としてパソコンの基本操作ができる。
- ③伝達・教化の手段として制作物の体裁・デザインを制作できる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

寺院行事の内容と目的について、実施する立場で正しく認識すること。伝えるべきことや言いたいことを的確、端的、効果的に提示できる言語表現や伝達方法を模索し続けること。また、周囲にある各種行事・イベント等のチラシ・ポスター・広告類の体裁や構成内容に目を向け、自分が活用するための参考材料として取り込んでおくこと。一方で、授業中に指摘する不足内容や修正箇所について、追加学習や修正作業を求める。

受講に当たったの留意事項

機器の操作が苦手な人にこそ意義あるものとなるよう展開する。授業中に指示する学習方針・制作方針に則り、独りよがりや、単に制作のみを目的とする事態に陥ってはならない。学習方針と無関係な操作が目立つ場合は、機器の使用禁止や授業時間外の作業を求めることがある。自己の教化を第一に、その延長にある檀信徒・地域・社会との関係や共生に結び付く学習であり、僧侶・寺院による発信としての制作実習であること。単に個人的なものに終始せず、明確な意義・目的を備えた上で、将来的な寺院活動への構想を持って学習に臨むこと。データの保存用にUSBメモリー（1G程度／5月の連休明け）が必要。

成績評価の基準

授業内試験	40%	操作方法・伝達方法・留意事項の理解度を判定する筆記課題 *意見交換にてフィードバックする
授業内課題	60%	学習方針・制作方針・基本事項の反映度を判定する制作物 *意見交換にてフィードバックする

テキストについて

適宜、資料を配付する。

華道（火曜日 3・4 講時）

大津光章

授業のテーマ

日本の伝統文化である華道を知ることにより、日本人が本来持っている自然への捉え方や共生の持つ意味を考え、且つ実作することによって表現の楽しさ大切さを学ぶ。

授業の概要

華道は、いろいろな要素が複合されながら、成立をみました。

華道が成立してゆく大きな流れと、その背景にどのようなものがあるのかを知ることにより、我々日本人が持っていると言われる、独自の自然感やその周りにおける文化の形成を探っていきます。

また、佛教のわが国への伝来によって、供養のひとつとして挙げられる、「供花」の発達を追いながら、佛教と日本人、また自然とのかかわりを再確認してゆきます。

授業の目的・ねらい

日本人の奥底にある自然感や死生観を考え、その成立をみてゆく。

華道を中心として構成される、文化の内容に触れる。

いのちを深く見つめると同時に、共に生きる大切さを考える。更に、他への心遣いを知り表現する喜びを感じる。

毎回の授業テーマ・内容

華道の成立とその背景に、何があるのかを探り、華道史の大まかな流れを講義することにより、日本人の心情や考え方を見つめる。

仏教とどのようにかかわって来たのか、特に浄土教の果たした役割を認識することで、供花が具えられている意味を学んでゆく。

また、実際に花に触れかたちにしてゆくことで、いのちの大切さと表現する喜びを感じてもらう。

到達目標

日本文化の背景を理解する。

いのちの大切さを感じる。

身の回りや他への心遣いを考える。

表現することを知る。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義について

テキストを参考に講義内容を理解するように務める。

実習について

水揚げを施し、生け直し、修得するよう務める。

心構えについて

周りの自然や風景を観察し、その生態や配置に心配るように務める。

成績評価の基準

定期試験（課題） 30% 定期の筆記試験は行いませんが、レポートの提出があります。

授業内発表 40% 講義内容と実習作品の理解度の評価

授業内試験 30% 実習作品が特に秀でている場合

テキストについて

『はじめよう いけばな！』（公財）日本いけばな芸術協会 編 500円

選択集Ⅰ（水曜日 1 講時）

田中 実 マルコス

授業のテーマ

『選択集』を読んで法然上人の浄土教を知る。

授業の概要

法然上人の著『選択本願念佛集』の講読。第一章から第六章まで講読する。

授業の目的・ねらい

法然上人が説いた選択本願念佛の思想を理解する。

毎回の授業テーマ・内容

（一学期）

・『選択集』撰述の経緯

・『選択集』の諸本

・全体構成と内容

・第一章 聖浄二門篇

・第二章 捨雑行帰正行篇

（二学期）

・第三章 念仏往生本願篇

・第四章 三輩念仏往生篇

・第五章 念仏利益篇

（三学期）

・第六章 末法万年特留念仏篇

・第一章～第六章のまとめ（一学期）

到達目標

善導・法然の浄土教を理解できる。

仏教用語を身に付ける。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

- ・授業中に各自に質問するので答えられるように予習すること。

受講にあたっての留意事項

- ・『選択集』を解説して、内容を理解するように努力すること。
- ・仏教語辞典、漢和辞典等を準備して授業に臨むこと。
- ・自分のノートをまとめること。

成績評価の基準

定期試験（教室）	50%	
授業内発表	30%	
その他	20%	受講態度

テキストについて

『選択本願念仏集』（浄土宗） 1,100円

参考文献について

『選択集講座』 藤堂恭俊（浄土宗） 5,280円

『選択集全講』 石井教道（平楽寺書店） 8,580円

『選択本願念仏集』 大橋俊雄校註（岩波文庫） 726円

『選択本願念仏集』 石上善應（ちくま学芸文庫） 1,540円

浄土教史概説Ⅰ（水曜日 2講時）

齊藤舜健

授業のテーマ

インドの浄土教から法然上人の直前までの浄土教の流れを概観する。

授業の概要

浄土教の流れについて、インド・中国および我が国の法然上人以前の浄土教の教理を中心に概説する。
特に重要な点については原典を読みつつ理解を深めて行きたい（資料は随時、配布する）。

授業の目的・ねらい

浄土宗の教えを理解するための基本的な概念や考え方を身につけ、それらがどのような経過を経てなりたってきたのかを理解する。

毎回の授業テーマ・内容

一年間の授業は概ね次の流れで行う。

1学期：インドの浄土教

2学期：中国の浄土教

3学期：我が国の浄土教

到達目標

浄土宗の教えの基本的な概念や考え方と、その成り立ちが理解できること。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

授業中に既習の事項について確認を求めるので、前回の授業内容を確認しておくこと。

成績評価の基準

定期試験(教室) 50%

授業内発表 50% 授業中の質疑への対応を考慮する。

テキストについて

『浄土教理史』 恵谷隆戒（浄土宗） 474円

茶道（水曜日 3・4講時）

大塚真教

授業のテーマ

「道・学・実」の三要素について、日本文化への造詣を深める。

授業の概要

日本の伝統文化のなかの一つである、茶道を講義・実践を通じて進めて「道・学・実」を学ぶ。
殊に、懐紙の使い方・茶道具の扱い・掛軸の取り扱い等を重視。

授業の目的・ねらい

日本の伝統文化のなか、茶道を実践し、その心を伝える。（裏千家 茶道の初歩）

室町時代に生まれた茶の湯は、禅の思想と深い関係を持っているだけでなく、美術工芸、書、数寄屋

建築などとも関わり、日本文化の総合とも云われている。

茶道は礼で始まり、礼で終わる。講義では実践を中心とした、割り稽古、盆略点前を進めていき、その中で礼儀作法・お道具の扱い方を学んでいただく。

日常での、お菓子を頂く、お茶を頂く事を始め、お菓子、お茶をお客様に出す時についても講義の中で実践していただきます。

僧侶として最低限度の作法（懐紙の扱い・茶碗の扱い）・道具の取り扱い（掛軸・四方掛け等）をも身につけて頂きたく受講を望む。

毎回の授業テーマ・内容

（一学期）

- ・襖の開け方、閉め方
- ・菓子器、茶碗の置きかた
- ・お道具の扱い
- ・割り稽古
- ・盆略点前

（二学期）

- ・盆略点前
- ・風炉点前
- ・炉点前
- ・掛軸、四方掛け
- ・四季の茶道について

（三学期）

- ・炉点前

到達目標

日本の伝統仏教文化の「道・学・美」の三要素の造形を理解できること。

作法通りに、お菓子をいただく、茶をいただく事ができ、その事を五感で楽しめるようになるように到達をする。

更には、作法にてお茶を点てられる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義について

サブ教材（テキスト）に講義で伝えた事を加筆をして自分だけのテキスト作りをする。

作法について

反復をして覚えるように努める。

学ぶことについて

季節の移り変わりの風景や、地域の行事ごとに関心を持って講義に取り組む。

受講にあたっての留意事項

同じ作法をするが、確りと作法を確実に覚えるように努めること。

成績評価の基準

定期試験(教室) 70% 各学期毎に筆記試験、実技試験、レポート試験のどれかの試験を実施をする。

その他 30% 積極的に講義に関する事を調べ、発言をした者に対し学期毎に加点をする。

テキストについて

サブ教材 テキストについては、最初の講義時に配布をする。

『裏千家 茶道』（今日庵）990円

参考文献について

講義の時に、随時紹介をする。

詠唱 I（木曜日 1・2 講時）

眞泉善章

授業のテーマ

浄土宗吉水流詠唱

授業の概要

念仏の「助業」としての「吉水流詠唱」の定義・意義・内容・歴史について講義し、法具を用いた基本作法の実践を指導する。まず、初歩的・基本的な「御詠歌」と「和讃」の数曲を唱えることができるようにしてもらおう。浄土宗僧侶として、将来の教化実践の場面で、「声」や「言葉」の持つ力を「詠唱」を通じて発揮できるように指導する。

授業の目的・ねらい

- ①念仏の「助業」としての「吉水流詠唱」の意義・内容を理解する。
- ②法具を用いた実践を通じて、「吉水流詠唱」の内容を体得・実感できるようになる。
- ③学外研修で「詠唱奉納」を実践体験する。
- ④5級詠唱講司の資格を取得する。

毎回の授業テーマ・内容

- 第1回：吉水流詠唱の定義について
- 第2回：吉水流詠唱の意義について
- 第3回：吉水流詠唱の内容について
- 第4回：吉水流詠唱の歴史について
- 第5回：吉水流詠唱の法具について
- 第6回：吉水流詠唱の威儀について
- 第7回：吉水流詠唱の作法について
- 第8回：吉水流詠唱の御詠歌について①
- 第9回：吉水流詠唱の御詠歌について②
- 第10回：吉水流詠唱の和讃について①
- 第11回：吉水流詠唱の和讃について②
- 第12回：吉水流詠唱の活用方法について
- 第13回：吉水流詠唱の応用について
- 第14回：吉水流詠唱の実践（授業内試験・筆記試験）
- 第15回：吉水流詠唱の実践（授業内試験・実技試験）

到達目標

- ①法具（鈴・鉦）を用いて、基本的な御詠歌・和讃を唱えることができる。
- ②基本的な御詠歌・和讃の内容を説明することができる。
- ③5級詠唱講司の資格を取得する。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

- ①法具を用いて御詠歌・和讃をお唱えすることは、慣れるまでは非常に難しいので、最初は自己研鑽・反復練習をすること。
- ②御詠歌・和讃の内容・意味の理解は、お唱えのために必須であるので、テキストの該当の説明部分をよく復習して理解すること。

受講に当たっての留意事項

詠唱の実践を通じて、お念仏の教え・法然上人の御心に直参することを心掛けてほしい。授業期日と日程が合う場合には学外研修として、吉水流詠唱奉納大会等に参加して詠唱奉納を体験する。

成績評価の基準

授業内発表	30%	法具を用いて、基本的な御詠歌・和讃を唱えてもらい、作法の定着度・音程の確実度・お唱えの習熟度などをそれぞれ確認して評価する。
授業内試験	40%	法具を用いて、基本的な御詠歌・和讃を唱えてもらい、決められた作法・音程の習熟度について確認して評価する。
授業内課題	30%	吉水流詠唱の基本的な御詠歌・和讃の内容・意味を口頭で説明してもらい、また、文章で説明してもらい、その内容を評価する。

テキストについて

詠歌集・和讃集・マニュアル・和讃解説書・法具（鈴・鉦・譜面台・調子笛）を準備すること。また、必要に応じて参考資料を配付する。

『吉水流詠歌集 音符用』	松濤基道	編集	（浄土宗）	1,000円
『吉水流和讃集 音符用』	松濤基道	編集	（浄土宗）	1,000円
『浄土宗詠唱マニュアル』	松濤基道	編集	（浄土宗）	1,500円
『浄土宗吉水流和讃解説書』	松濤基道	編集	（浄土宗）	1,000円

参考文献について

授業中に、必要に応じて指示する。

『法然さま 二十三のお歌』	伊藤真宏	（浄土宗出版）	462円
『吉水流詠歌集CD（3枚組）』	松濤基道	編集（浄土宗吉水講）	6,000円
『はすうた―極楽浄土巡礼歌―』	伊藤真宏	（浄土宗鳥取教区・教化団）	
『近代仏教教団とご詠歌』	新堀欲乃	（勉誠出版）	6,600円

三経概説 I (木曜日 3 講時)

市川定敬

授業のテーマ

『無量寿経』の講読

授業の概要

『無量寿経』の講読を通して、浄土教の基礎を学ぶ。

授業の目的・ねらい

浄土三部経の一つである、重要な經典の内容理解に努める。

毎回の授業テーマ・内容

主に、以下の五点を柱として授業を行う。

- ・『無量寿経』の諸本と概要
- ・『無量寿経』の構成
- ・『無量寿経』誓願文と成就文との関係
- ・『無量寿経』の三輩段
- ・法蔵菩薩と阿弥陀仏と釈尊との関係

到達目標

『無量寿経』の概要、および浄土宗の教義における重要性を説明できる。

授業時間外の学習(予習・復習)についての具体的な指示

特に『無量寿経』の構成について、注意して読んで下さい。

成績評価の基準

定期試験(教室)	50%
授業内試験	20%
その他	30%(授業出席 10% 受講態度 20%)

テキストについて

『浄土宗聖典』第一巻 浄土宗聖典刊行委員会編(浄土宗) 7,200円

参考文献について

適宜、資料を当方にて配付します。

『浄土三部経概説 新訂版』坪井俊映(法蔵館) 15,730円

『現代語訳 浄土三部経』浄土宗総合研究所編(浄土宗) 1,540円

仏教学概論 I (木曜日 4 講時)

吹田隆徳

授業のテーマ

ゴータマ・ブッダの生涯と思想

授業の概要

仏教の開祖であるゴータマ・ブッダ(釈尊)の生涯の全体像を明らかにするとともに、仏教の根幹を形成するブッダの思想を解説する。

授業の目的・ねらい

紀元前5世紀前後、インドにあらわれたゴータマ・ブッダはどのような生涯をおくり、いかなる思想を私たちに示してくれたのだろうか。ゴータマ・ブッダの生涯と思想を眺めることは、仏教の出発点に身を置きながら、仏教の根幹を理解することにつながる。この授業では、出発点において仏教がいかなる宗教であったのかを探りながら、ゴータマ・ブッダの生涯と思想の概要を把握し、あわせて今日の私たち自身の置かれた状況との関わりを考えていきたい。

毎回の授業テーマ・内容

- 1) イントロダクション: インドという世界
- 2) ブッダ誕生以前のインド社会とバラモン教
- 3) ブッダの誕生伝説に隠された意味
- 4) 出家に至る過程と動機
- 5) 修行者としてのブッダ: そして成道へ
- 6) ブッダの覚りとは何か(1) — 苦からの解脱 —
- 7) ブッダの覚りとは何か(2) — 縁起 —
- 8) 初めての説法の意味 — 他者への伝達 —
- 9) 説法の内容(1) — 中道と八正道 —
- 10) 説法の内容(2) — 四聖諦 < 苦の存在・苦の原因 > —

- 11) 説法の内容 (3) —四聖諦<苦の滅・苦の滅に至る道>—
- 12) ブッダの教えの拡大と仏教教団の成立
- 13) ブッダの死の意味
- 14) まとめ — 現代社会と仏教との関わり

到達目標

- ① ゴータマ・ブッダの生涯について説明することができる。
- ② ゴータマ・ブッダの思想について説明することができる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

授業の中で学習した内容についての理解度を確認するために、適宜課題（宿題）を課し、次回の授業において提出を求める。課題にしっかり答えられるよう、時間をかけて十分に復習を行うこと。また、授業内容を確実に修得するために、授業には必ず前回の内容の復習を行ってから参加すること。

受講に当たっての留意事項

授業中に、学生に理解の度合いや個人的意見などの発言を求める。授業を通して自分の意見を表明できるような力を養ってほしい。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	教室での筆記試験を実施し、到達目標に対する達成度を評価する。期待値をはるかにこえた達成度であれば90～100点、期待値を十分に達成していれば80～89点、期待値をほぼ達成していれば70～79点、期待値を下回りもう少し努力が必要な場合は60～69点、期待値をはるかに下回り更なる努力が必要な場合は0～59点とする。
授業内発表	40%	授業内で提示した質問や課題への応答状況によって評価する。期待値をはるかにこえた達成度であれば90～100点、期待値を十分に達成していれば80～89点、期待値をほぼ達成していれば70～79点、期待値を下回りもう少し努力が必要な場合は60～69点、期待値をはるかに下回り更なる努力が必要な場合は0～59点とする。

テキストについて

必要な資料については、プリントを授業中に配付する。

参考文献について

参考文献については授業の中で提示する。

仏教史概説 I（金曜日 1 講時）

吹田 隆道

授業のテーマ

インド仏教史

授業の概要

釈迦牟尼の生涯と思想から大乘仏教思想までのインド仏教史をたどる。

授業の目的・ねらい

インド仏教の歴史を確認することで、法然浄土教につながる思想のながれを知る。

毎回の授業テーマ・内容

- 第1回：仏教学とは？ 仏教文献学の世界
- 第2回：ブッダは歴史的人物か否か？ 近代仏教学での論争と資料論
- 第3回：ブッダの生存年代 南伝説と北伝説
- 第4回：仏教誕生の歴史的背景① ヴェーダの宗教からウパニシャッドの哲学まで
- 第5回：仏教誕生の歴史的背景② 自由思想家たちの思想
- 第6回：仏伝におけるブッダ①「誕生」 誕生伝説の謎
- 第7回：仏伝におけるブッダ②「少年期・宗家」 自己存在の悲しみ
- 第8回：仏伝におけるブッダ③「成道」① 対機説法とオープン・キャンオン
- 第9回：仏伝におけるブッダ④「成道」② 無我・無常・苦 初期仏教の基本教理①
- 第10回：仏伝におけるブッダ⑤「成道」③ 梵天勧請と慈悲 初期仏教の基本教理②
- 第11回：仏伝におけるブッダ⑥「初めての説法」① 中道・八正道 初期仏教の基本教理③
- 第12回：仏伝におけるブッダ⑦「初めての説法」② 四諦説 I 初期仏教の基本教理④
- 第13回：仏伝におけるブッダ⑧「初めての説法」③ 四諦説 II 初期仏教の基本教理⑤
- 第14回：仏伝におけるブッダ⑨「ブッダの弟子たち」
- 第15回：仏伝におけるブッダ⑩「ブッダの死」 ブッダが描いた社会

- 第16回：シャーキヤムニの滅後 三蔵の成立
- 第17回：仏教の思想① 縁起説Ⅰ
- 第18回：仏教の思想② 縁起説Ⅱ
- 第19回：仏教の思想③ 三科（五蘊・十二処・十八界）
- 第20回：仏教の思想④ 迷いの世界（煩惱・輪廻・業）
- 第21回：仏教の思想⑤ 三学・三十七菩提分法
- 第22回：部派仏教の思想① 部派仏教とは
- 第23回：部派仏教の思想② アビダルマと説一切有部
- 第24回：部派仏教の思想③ 五位七十五法と三世実有
- 第25回：三明と一切知者
- 第26回：大乘仏教の思想① 菩薩の思想
- 第27回：大乘仏教の思想② 大乘菩薩の実践体系（六波羅蜜）
- 第28回：大乘仏教の思想③ 中観思想（空と縁起、世俗の真理とブツダの真理）
- 第29回：大乘仏教の思想④ 唯識思想（唯識、三性説、阿頼耶識）
- 第30回：大乘仏教の思想⑤ 浄土思想（阿弥陀仏と極楽）

到達目標

インド仏教の歴史を学ぶことによって、僧侶が知るべき仏教の基本を得る。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

指定されたテキストと参考文献を予め読み、授業の際にとったノートで復習すること。

受講に当たっての留意事項

しっかりと授業を聞き、ノートをとること。

成績評価の基準

定期試験（教室） 70%
 その他 30% 授業での態度と理解力

テキストについて

『新訂 仏教学概論』 浄土宗（浄土宗出版） 1,100円
 『ブツダとは誰か』 吹田隆道（春秋社） 2,090円

浄土学概論Ⅰ（金曜日 2講時）

本 庄 良 文

授業のテーマ

浄土宗の教えのあらまし

授業の概要

- (1) 浄土宗の教えの要点を概説します。
- (2) 具体的な内容は、「毎回の授業テーマ・内容」の通りです。
- (3) 授業中には時折質問します。
- (4) 知識を整理するためにクイズを出します。

授業の目的・ねらい

- (1) 浄土宗僧侶として必要な、浄土宗の教えの基礎を学ぶ。
- (2) そのために、専門用語や考え方の正確な理解を目指す。

毎回の授業テーマ・内容

- (1) シラバス（授業計画）と文献
- (2) 仏教の世界観・人生観（諸行無常・一切皆苦・諸法無我）
- (3) 煩惱、業、輪廻（仏教の悲観的な世界観・人生観は何の役に立つか）
- (4) さまざまな浄土 極楽浄土だけが浄土ではない
- (5) 浄土宗の根本聖典 浄土三部経と往生論
- (6) 極楽浄土とはどんなところか（阿弥陀仏とその四十八願、依報・正報）
- (7) 浄土宗の仏教観（浄土門と聖道門：ブツダの教えをどう分類・価値づけするか）
- (8) 末法思想・時機相応の教え
- (9) 極楽往生のための修行（浄土三部経の説）
- (10) 極楽往生のための修行（世親の五念門）
- (11) 善導の正行・雑行、正定業と助業、念仏と諸行
- (12) 四修（恭敬修・無余修・無間修・長時修）
- (13) 念仏とは何か：その1、仏とは何か

- (14) 指方立相（西という方角を指し示し、具体的な姿を設ける）
- (15) 念仏とは何か：その2、念仏とは何か
- (16) 念仏往生の本願（第十八願） 念声是一論、「乃至十念」
- (17) 法然の専修念仏思想・念仏と諸行
- (18) 法然教団への弾圧
- (19) 往生のための心構え：三心、至誠心（真実の心）
- (20) 深心（深く信じる心）
- (21) 廻向発願心（すべての善根功徳を極楽に回し向け、往生を願う心）
- (22) 法然上人の三心解釈
- (23) 念仏相続（念仏を続ける必要性）
- (24) 浄土教関連文献の現代語訳

到達目標

- (1) 浄土宗の教えの基本がわかり、友達に説明できる。
- (2) 資料を見てクイズに答えることができる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

- (1) 授業までに資料を声に出して読んでおいてください。
- (2) 難しい漢字や用語の意味を調べておいてください。
- (3) クイズの答えを考えておいてください。

受講に当たっての留意事項

話の途中でも気軽に手を挙げて質問してください。

成績評価の基準

定期試験（教室）	80%
授業内発表	20%

テキストについて

資料を配布します。

実践仏教学1（金曜日 3講時）

栗飯原 岳 志

授業のテーマ

法式の基礎

授業の概要

伝宗伝戒道場に向けた基礎的な法式全般について解説する。

授業の目的・ねらい

伝宗伝戒道場に向け必須の基礎的な法式について理解習得することを目指す。

毎回の授業テーマ・内容

聞法作法・衣帯の着脱

食作法

日常勤行式

半斎供養式

恭敬礼拝

威儀法

法服法

執持法

襍履法

日常勤行式の節付

六時礼讃

伝宗伝戒道場（加行道場）の差定について

到達目標

基礎的な法式について、その意義及び作法を理解習得する。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

授業で学修した項目については繰り返し復習し、理解を深めておくこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	
授業内発表	20%	
その他	20%	受講態度

テキストについて

『浄土宗勤行法』（佛教大学） 2,500円

『浄土宗法要集』上・下 浄土宗総合研究所編（浄土宗） 各3,300円

『浄土三部経』 浄土宗聖典刊行委員会編（浄土宗） 5,500円

『浄土宗法要集 音声部』折本 浄土宗総合研究所編（浄土宗） 5,500円

『折本 浄土宗日常勤行式（阿弥陀経・真身観文・般若心経付）』 浄土宗総合研究所監修
浄土宗出版編（浄土宗） 693円

実践仏教学2（金曜日 4講時）

栗飯原 岳 志

授業のテーマ

法式の基礎

授業の概要

実践仏教学1で解説した内容を実習する。

授業の目的・ねらい

伝宗伝戒道場に向け必須の基礎的な法式について、実習を通じて身に付けることを目指す。

毎回の授業テーマ・内容

日常勤行をはじめ、威儀法・法服法・執持法・韃稚法・音声等を繰り返し実習する。

到達目標

威儀法・法服法・執持法・韃稚法について、適正に作法を実践できる。

聞法作法・食作法・日常勤行（節付き、礼拝、六時礼讃等含む）・半斎供養式等を適正に勤められる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

実習した内容については繰り返し復習し身に付けるよう心がけること。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	
授業内発表	20%	
その他	20%	受講態度

テキストについて

実践仏教学1に同じ。

実践仏教学3（金曜日 5講時）

栗飯原 岳 志

授業のテーマ

浄土三部経の輪読

授業の概要

浄土三部経の音読実習

授業の目的・ねらい

浄土三部経『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の音読を繰り返し実習し、適切に読誦できることを目指す。

毎回の授業テーマ・内容

浄土三部経『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の読誦法の解説と音読実習を行う。

繰り返し少しずつ読み進めることとする。

『阿弥陀経』については切割笏による読誦についても練習する。

到達目標

浄土三部経『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』を適切に読誦できる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

繰り返し反復練習することが望ましい。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	
授業内試験	20%	
その他	20%	受講態度

テキストについて

『浄土三部経』 浄土宗聖典刊行委員会編（浄土宗） 5,500円

授業のテーマ

掃除に学ぶ

授業の概要

作務（掃除）・法務の実習。

授業の目的・ねらい

本学寮の《生活態度》に掲げる「一掃除、二勤行、三学問」の掃除と定期法要における法務の実習。

毎回の授業テーマ・内容

「掃除に学ぶ」をテーマに、なぜ今掃除なのか。その意義を考え、実践したい。また、大本山清浄華院において、定期法要（特に御忌会、彼岸会、骨佛法要など）に参加し、法式・念仏、伴僧や諸堂での法務や作務を体験実習する。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

指示待ちでなく、何をすべきかを、考えて行動出来るように、心懸けてほしい。

成績評価の基準

その他 100% 実習の姿勢や態度、出席状況を重視する。

※ テキスト・参考文献の価格は変更となる場合があります。